

零式 L feat. 痕跡を留める。 Ver.2.00.00

ユーザーズ・マニュアル

目次

零式 L feat. 痕跡を留める。 Ver.2.00.00	1
ユーザーズ・マニュアル	1
1. はじめに.....	4
1.1 零式 L とは?	4
1.2 動作環境.....	4
2. インストレーション	5
2.1 インストール.....	5
2.2 アンインストール	6
3. GUI 操作	7
3.1 基本画面.....	7
3.2 プログラム・ランチャ画面.....	9
3.3 ファイル検索画面	11
3.4 ファイル検索結果表示画面.....	15
3.5 コンフィギュレーション画面	17
3.6 プログラム登録画面.....	19
3.7 プロパティ表示画面.....	21
3.8 データベース表示画面	22
3.8.1 データベース表示画面 追加画面	24
4. 自然言語操作	25
4.1 自然言語ランチャ機能	25
4.1.1 概要	25
4.1.2 文法	25
4.2 自然言語ファイル検索機能.....	28
4.2.1 概要	28
4.2.2 文法	28
4.3 自然言語プログラム終了機能	37
4.3.1 概要	37
4.3.2 文法	37
5. GUI ランチャ機能.....	38
5.1 プログラム・ランチャ画面から起動する場合	38
5.2 ファイル検索結果表示画面から起動する場合	38
6. GUI ファイル検索機能.....	39

6.1 バイナリ検索についての補足	39
6.2 サブフォルダの深さについて	39
7. システム・ファイルの構造	40
7.1 概要	40
7.2 アプリケーション辞書ファイルの構造	40
7.2.1 カラム	40
7.2.2 アプリケーション辞書ファイルの設定例	42
7.3 ファイル/フォルダ辞書ファイルの構造	42
7.3.1 カラム	42
7.3.2 ファイル/フォルダ辞書ファイルの設定例	43
7.4 コマンドライン・オプション辞書ファイルの構造	43
7.4.1 カラム	44
7.4.2 コマンドライン・オプション辞書ファイルの設定例	45
7.5 登録情報の削除	45

1. はじめに

1.1 零式 L とは？

「零式 L」とは、米国の SF テレビ番組「STAR TREK : The Next Generation」に登場するコンピュータ、「LCARS」のシミュレータ(?)です。「零式 L」には貧弱ながら日本語パーサが搭載されており、日本語による命令が可能となっています。

1.2 動作環境

零式 L は以下の環境で動作を確認しています。

- Intel(R) Core(TM) i5-8250U CPU @ 1.6GHz
- RAM 8.00GB
- Microsoft Windows10 Home

2. インストールレーション

2.1 インストール

ZL1.00.00.zip を解凍すると、以下のファイル群が生成されます。

解凍時に生成されるフォルダを任意の場所に置いて下さい(推奨：C:¥零式 L)。これでインストールは完了です。

```
<零式 L> - + - <files>      + command_cage.txt
      |                      + conj_cage.txt
      |                      + file_cage.txt
      |                      + ins_cage.txt
      |                      + mode_cage.txt
      |                      + option_cage.txt
+ - <skins>      + zl_config.bmp
      |          + zl_dormant.bmp
      |          + zl_presearch.bmp
      |          + zl_property.bmp
      |          + zl_regist.bmp
      |          + zl_result.bmp
      |          + zl_search.bmp
      |          + zl_view.bmp
      |          + zl_database.bmp
+ - <Database> + reg.csv
+ 「痕跡を留める。」について.htm
+ hspext.dll
+ lcars.exe
+ Readme_1st.txt
+ ZL.ini
+ 簡単な使い方.txt
+ 既知の問題.txt
+ 権利関係について.txt
+ 痕跡を留める。レコード・ファイル仕様書.pdf
+ 答教.txt
+ 零式 L_ユーザーズ・マニュアル.pdf
```

2.2 アンインストール

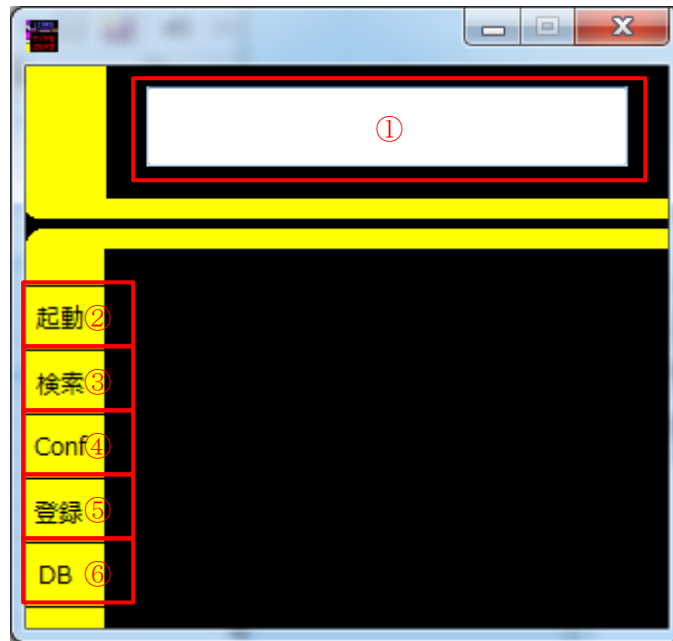
解凍時に生成されたフォルダをそのまま削除して下さい。

零式 L はレジストリを操作しませんので、これでアンインストールは完了です。

3. GUI 操作

この章では、GUI を使った零式 L の操作方法について記します。

3.1 基本画面



① コマンドライン入力用スペース

コマンドラインで自然言語の命令を入力するためのインプット・ボックスです。

② プログラム・ランチャ画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、プログラム・ランチャ画面に切り替わります。

③ ファイル検索画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、ファイル検索画面に切り替わります。

④ コンフィギュレーション画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、コンフィギュレーション画面に切り替わります。

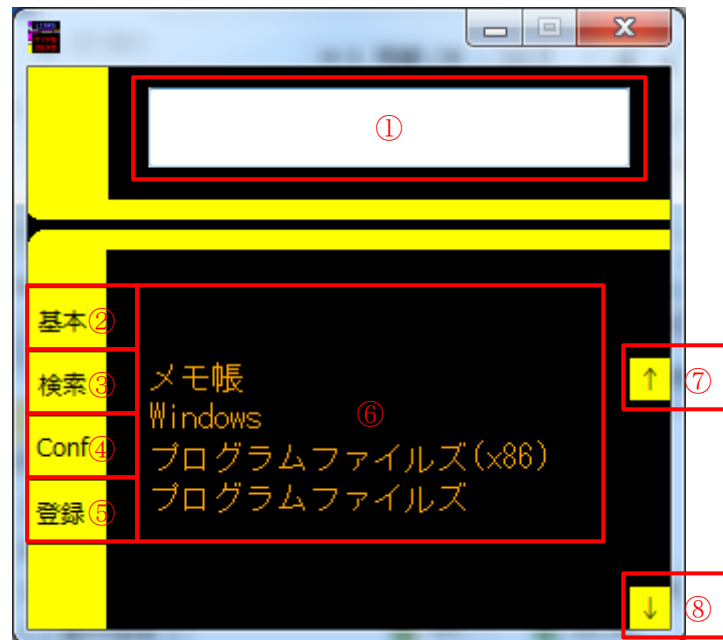
⑤ プログラム登録画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、プログラム登録画面に切り替わります。

⑥ データベース表示画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、データベース表示画面に切り替わります。

3.2 プログラム・ランチャ画面



① コマンドライン入力用スペース

コマンドラインで自然言語の命令を入力するためのインプット・ボックスです。

② 基本画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、基本画面に切り替わります。

③ ファイル検索画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、ファイル検索画面に切り替わります。

④ コンフィギュレーション画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、コンフィギュレーション画面に切り替わります。

⑤ プログラム登録画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、プログラム登録画面に切り替わります。

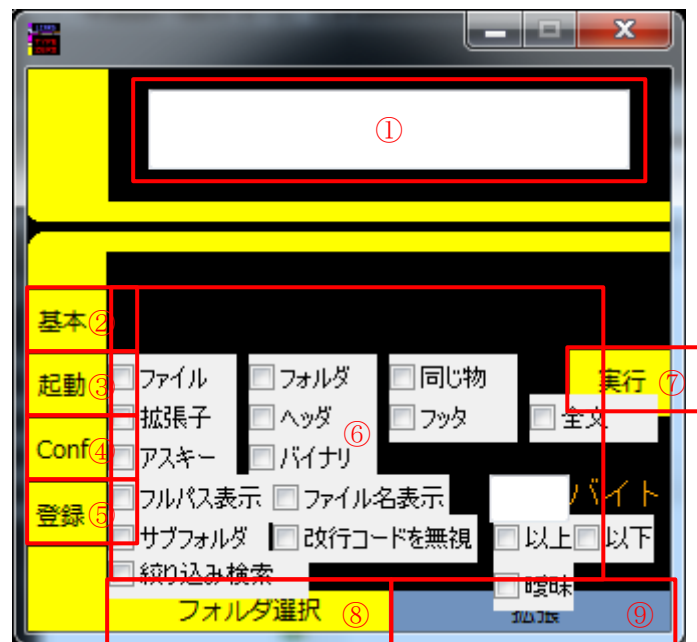
⑥ 登録済アプリケーション名/ファイル名/フォルダ名表示領域

辞書に登録されているアプリケーション/ファイル/フォルダが表示されます。それぞれの名前を左クリックすることにより、プロパティ表示画面に切り替わります。

⑦ ⑧ スクロール領域

辞書に登録されているアプリケーション/ファイル/フォルダが 5 つ以上存在する場合、この領域を左クリックすることにより 1 行ずつアプリケーション名/ファイル名/フォルダ名がスクロールします。

3.3 ファイル検索画面



① 検索語入力用スペース

ファイル検索のキーワードを入力するためのインプット・ボックスです。

② 基本画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、基本画面に切り替わります。

③ プログラム・ランチャ画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、プログラム・ランチャ画面に切り替わります。

④ コンフィギュレーション画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、コンフィギュレーション画面に切り替わります。

⑤ プログラム登録画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、プログラム登録画面に切り替わります。

⑥ 検索条件指定領域

この領域に配置されたチェック・ボックスを使って検索条件を指定します。

■ファイル/フォルダ チェック・ボックス

検索対象をファイルとする場合は”ファイル”、フォルダとする場合は”フォルダ”のチェック・ボックスにチェックを入れて下さい。ファイルとフォルダ両方を検索対象とする場合は両方のチェック・ボックスにチェックを入れて下さい。

両方共にチェックを入れなかった場合、何も検索対象としない空検索になってしまいますので、ご注意ください。

■同じもの チェック・ボックス

このチェック・ボックスは、現在は意味を持っていません。

■拡張子/ヘッダ/フッタ/全文 チェック・ボックス

拡張子/ヘッダ(ファイルの先頭 128 バイト)/フッタ(ファイルの終端 128 バイト)/全文のいずれの方法で検索するかを選択します。

例えば、”拡張子”にチェックを入れて、検索語入力用スペースに”txt”と入力した場合、拡張子が”txt”のファイルを検索します。”全文”にチェックを入れて検索語入力用スペースに”私”と入力した場合、ファイル中に”私”を含むファイルを検索します。

全てのチェック・ボックスにチェックを入れなかった場合、”ファイル名”を検索します。

■アスキー/バイナリ チェック・ボックス

ヘッダ/フッタ/全文検索を行う場合、アスキー・モードで検索するか、バイナリ・モードで検索するかを選択します。

“アスキー”にチェックを入れて、検索語入力用スペースに”私”と入力した場合、(Shift-JISで)”私”という語を含むファイルを検索します。

“バイナリ”にチェックを入れて、検索語入力用スペースに”fae0”と入力した場合、バイナリ・データに 0xfae0 を含むファイルを検索します。

どちらにもチェックを入れなかった場合、アスキー・モードでの検索となります。

■フルパス表示/ファイル名表示 チェック・ボックス

検索結果をフルパスで表示するか、ファイル名のみで表示するかを選択します。

どちらも選択しなかった場合、ファイル名のみでの表示となります。

■サブフォルダ チェック・ボックス

検索対象フォルダの配下のフォルダ内まで検索するかどうかを選択します。

チェックを入れなかった場合、配下のフォルダ内は検索しません。

■改行コードを無視 チェック・ボックス

チェックを入れた場合、全文検索指定時に”CR”, “LF”を無視します。

■絞り込み検索 チェック・ボックス

一度検索を実行し、すでに検索結果が存在する場合に、検索条件にヒットしたファイルをさらに別の条件で絞り込み検索する場合にチェックを入れます。

■以上/以下/曖昧 チェック・ボックス

ファイル・サイズでファイルを検索する場合にチェックを入れます。右横に”バイト”と書かれているインプット・ボックスにファイル・サイズを入力し、そのサイズ以上のファイルを検索する場合は”以上”チェック・ボックスにチェックを入れます。同様に、入力したサイズ以下のファイルを検索する場合は”以下”チェック・ボックスにチェックを入れます。”曖昧”チェック・ボックスにチェックを入れた場合、インプット・ボックスに入力したファイル・サイズの 50%～150%の範囲に含まれるサイズのファイルを検索します。

インプット・ボックスへの入力下記の様式で行います。

XXXXY

X – 0～9 の数字

Y – 補助単位

補助単位は下記の種類が使えます。

K, k, キロ キロ・バイト。入力した数字を 1024 倍して検索を行います。

M, m, メガ メガ・バイト。入力した数字を 1048576 倍して検索を行います。

G, g, ギガ ギガ・バイト。入力した数字を 1073741824 倍して検索を行います。

入力例：

10M

120 キロ

⑦ 検索実行指定領域

この領域を左クリックすることにより、その時点で指定されている検索方法に従って検索を実行します。

⑧ フォルダ選択領域

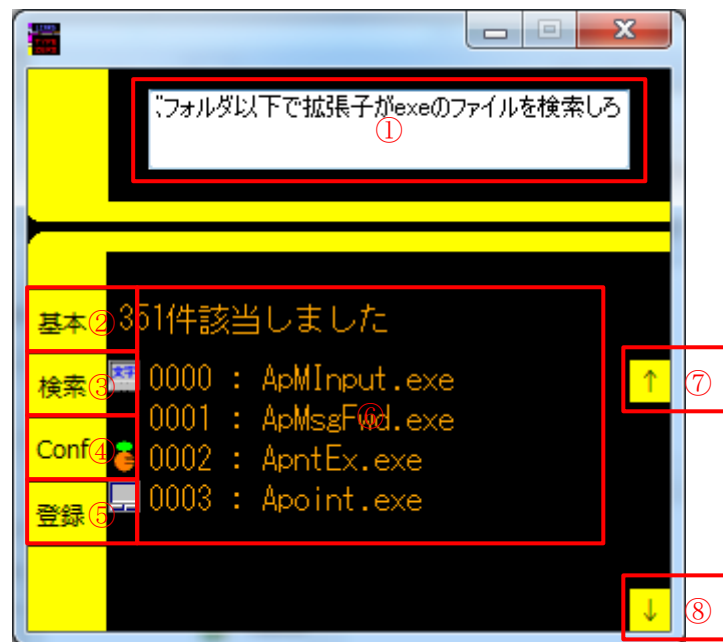
この領域を左クリックすることにより、検索を行うフォルダを選択するダイアログを呼び出します。

フォルダを選択しなかった場合、C ドライブのルート・ディレクトリから検索を実行します。

⑨ 拡張領域

この領域を左クリックすることにより、ファイル選択ダイアログが呼び出されますが、現在は意味を持ちません。

3.4 ファイル検索結果表示画面



① コマンドライン入力用スペース

コマンドラインで自然言語の命令を入力するためのインプット・ボックスです。

② 基本画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、検索結果を破棄して基本画面に切り替わります。

③ ファイル検索画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、ファイル検索画面に切り替わります。

④ コンフィギュレーション画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、検索結果を破棄してコンフィギュレーション画面に切り替わります。

⑤ プログラム登録画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、プログラム登録画面に切り替わります。

⑥ 検索結果表示領域

検索条件に該当したファイル/フォルダ名を表示します。それぞれの名前を左クリックすることにより、プロパティ表示画面に切り替わります。

⑦ ⑧ スクロール領域

検索条件に該当するファイル/フォルダが 5 つ以上存在する場合、この領域を左クリックすることにより 1 行ずつファイル名/フォルダ名がスクロールします。

3.5 コンフィギュレーション画面



① 基本画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、基本画面に切り替わります。

② ファイル検索画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、ファイル検索画面に切り替わります。

③ ファイル検索画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、ファイル検索画面に切り替わります。

④ プログラム登録画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、プログラム登録画面に切り替わります。

⑤ フォント・カラー設定領域

フォント・カラーの R 成分、G 成分、B 成分を 0～255 の数値で指定します。

⑥ スキン画像/SAPI 使用設定領域

各画面で表示するスキン画像を指定します。

また、表示言語の設定と、SAPI の使用について設定を行います。

⑦ 設定内容の保存

⑤および⑥で設定した内容を設定ファイルに保存します。設定した内容は零式 L の再起動により有効になります。

3.6 プログラム登録画面



① 基本画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、基本画面に切り替わります。

② ファイル検索画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、ファイル検索画面に切り替わります。

③ コンフィギュレーション画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、コンフィギュレーション画面に切り替わります。

④ プログラム登録画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、プログラム登録画面に切り替わります。

⑤ 登録情報入力領域

プログラムの登録名、プログラムの絶対パス、プログラムの作業フォルダを入力します。

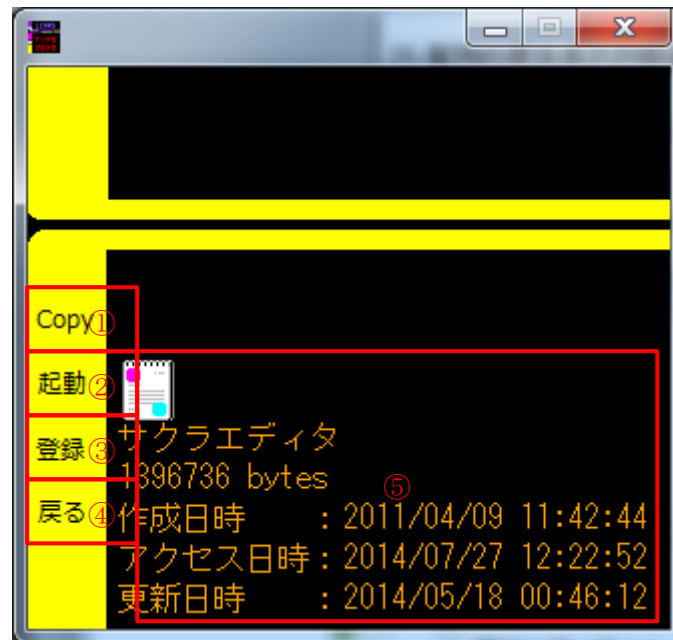
⑥ 登録辞書選択

登録するプログラムを”アプリケーション辞書”に登録するか、”ファイル/フォルダ辞書”に登録するかを選択します。

⑦ 設定内容の保存

登録情報を選択した辞書に保存します。

3.7 プロパティ表示画面



① クリップボードにコピー

プロパティが表示されているプログラムまたはファイル/フォルダのフルパスをクリップボードにコピーします。

② プログラムの立ち上げ

プロパティが表示されているプログラムまたはファイル/フォルダを立ち上げます。

③ プログラム登録画面への切り替え

この領域を左クリックすることにより、プログラム登録画面に切り替わります。

④ 前画面への切り替え

プロパティ表示画面を表示する前の画面に戻ります。

⑤ プロパティ表示領域

ファイルのフルパスまたはプログラム登録名とファイル・サイズ、作成日時などが表示されます。

3.8 データベース表示画面



① 登録データベース表示領域

現在登録されているデータベースが表示されます。

② 書誌情報表示領域

①で選択したデータベースの書誌情報が表示されます。

③ 見出し語表示領域

①で選択したデータベースの見出し語が表示されます。

④ 説明ファイル一覧表示領域

③で選択した見出し語の説明ファイル一覧が表示されます。

⑤ 説明表示領域

④で選択した説明ファイルの内容が表示されます。

⑥ その他ファイルの選択ドロップダウンリスト

③で選択した見出し語のその他ファイルを選択します。

⑦ その他ファイル一覧表示領域

⑥で選択したその他ファイルの一覧が表示されます。

⑧ その他ファイルの表示ボタン

このボタンを押下することにより、⑦で選択したファイルが関連付けられたアプリケーションで開かれます。

⑨ 検索語入力スペース

③に表示されている見出し語を検索する検索語を入力します。リターン・キー押下で検索結果が③に表示されます。

空入力で検索結果がリセットされます。

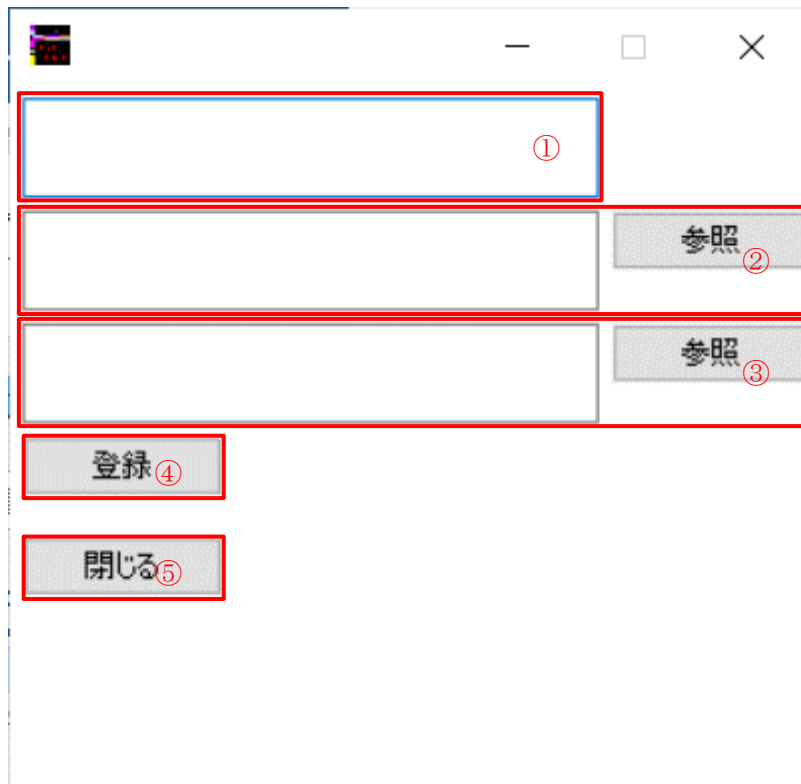
⑩ 開くボタン

このボタンを押下することにより、登録されていない「痕跡を留める。」形式データベースのレコード・ファイル(統括ファイル)を開くことができます。

⑪ 追加ボタン

このボタンを押下することにより、データベース表示画面の追加画面を開き、新たにデータベースを登録することができます。データベース表示画面の追加画面については、3.8.1節を参照して下さい。

3.8.1 データベース表示画面 追加画面



① データベース名入力

データベースの登録名を入力します。

② 統括ファイル選択

「痕跡を留める。」形式のデータベース(統括ファイル)を選択します。「参照」ボタンを押下することにより、ファイル選択ダイアログが表示されます。

③ データベース格納フォルダ選択

「痕跡を留める。」形式データベースのレコード・ファイル群が格納されたフォルダを選択します。「参照」ボタンを押下することにより、フォルダ選択ダイアログが表示されます。

④ 登録ボタン

このボタンを押下することにより、データベースが新たに登録されます。

⑤ 閉じる

このボタンを押下することにより、本画面を閉じます。

4. 自然言語操作

この章では、自然言語を使った零式 L の操作方法について記します。

4.1 自然言語ランチャ機能

4.1.1 概要

零式 L では、インプット・ボックスに日本語を入力することにより、アプリケーションの起動を行ったり、ファイル/フォルダを開いたりすることが可能です。本章では零式 L のインプット・ボックスに入力する日本語の文法について説明します。

なお、本章で使われている品詞は、零式 L 独自の定義で使用しており、本来の品詞とは用法が異なる場合があります。

4.1.2 文法

零式 L は、下記の書式に従う日本語を入力することにより、アプリケーションの起動/ファイル・フォルダの起動を行います。

File₁ Specific₆ Conj₅ Mode₂ Specific₆ Conj₅ Application₃ Specific₆ Conj₅ Action₄

1. File	ファイル名	※1
2. Mode	コマンドライン・オプション	※1
3. Application	アプリケーション名	※1
4. Action	動詞	
5. Conj	接続詞	※2
6. Specific	指定詞	※3

※1 省略可。ただし、File/Application を同時に省略することは不可。最低限いずれか一つの指定が必要。

※2 省略可。ただし、File/Application のいずれかを絶対パスで指定した場合は省略不可。

※3 省略可

1. File ファイル名

`file.txt` で定義されたファイル/フォルダを指します。

零式 L の画面にファイルの検索結果が表示されている場合は、表示行数を指定することによりファイルを開くことができます。この場合、「**n** 行目」または「**n** 番目」という記述が"File"に相当します。

`file.txt` に定義されていないファイルを指定した場合の動作は保証しません。また、検索結果として表示されている最大行数を超える値を「**n** 行目」「**n** 番目」として指定した場合はエラーを返します。

なお、アプリケーションとファイルを同時に指定し、指定したアプリケーションで指定したファイルを開こうとする場合、ファイル名の指定は指定したアプリケーションがコマンドラインからのファイル名入力に対応している場合に限り有効です。アプリケーションがコマンドラインからのファイル名入力に対応していない場合、零式 L でファイル名を指定してもアプリケーションに指定したファイル名が渡されることはありません。

また、アプリケーションを指定せず、ファイルのみを指定した場合、ファイルに関連づけられたアプリケーションでファイルが開かれます。関連づけられたアプリケーションが存在しないファイルをアプリケーションの指定無しで開こうとした場合の動作は保証しません。

2. Mode コマンドライン・オプション

`option.txt` で定義されたコマンドライン・オプションを指します。ここで指定できるコマンドライン・オプション名は `option.txt` で定義されたものだけです。文中に直接コマンドライン・オプションを指定することはできません。

3. Application アプリケーション名

`ins.txt` で定義されたアプリケーション名、または絶対パスで指定されたアプリケーションを指します。ここで指定する絶対パスはドライブ名から記述する必要があります。

零式 L の画面にファイルの検索結果が表示されている場合は、表示行数を指定することによりアプリケーションを起動することができます。この場合、「**n** 行目」または「**n** 番目」という記述が"Application"に相当します。

4. Action 動詞

`command.txt` で定義された動作を指します。自然言語ランチャ機能は、下記の動詞のうちいずれかを指定することにより利用できます。

- "起動"
- "起動しろ"
- "開け"

5. Conj 接続詞

`conj.txt` で定義された接続詞を指します。

接続詞の指定は通常は省略可能です。ただし、アプリケーション名またはファイル名を絶対パスで指定した場合は、接続詞の指定を省略することはできません。

自然言語ランチャ機能では、下記の接続詞を使用可能です。

- "を"
- "で"
- "の"

6. Specific 指定詞

指定詞の直前に配置された単語がファイル名/コマンドライン・オプション/アプリケーション名のいずれであるかを指定するための単語です。

指定詞はいかなる場合に置いても省略可能です。

自然言語ランチャ機能では、下記の接続詞を使用可能です。

- | | |
|--------------|------------------|
| • "アプリケーション" | アプリケーションの指定 |
| • "プログラム" | 同上 |
| • "ファイル" | ファイルの指定 |
| • "フォルダ" | フォルダの指定 |
| • "モード" | コマンドライン・オプションの指定 |
| • "オプション" | 同上 |

なお、ファイル名/アプリケーション名を絶対パスで指定した場合、指定詞を記述することは出来ません。

文法の補足

"File + Specific + Conj", "Mode + Specific + Conj"および"Application + Specific + Conj"は、零式 L の文法上では 1 つのブロックとして扱われます。これらのブロックはそれぞれ独立しており、ブロック同士の並び順は、自然言語で指示を与えるユーザが任意に決定できます。ただし、"Action"のみは文の最後に配置しなければなりません。

4.2 自然言語ファイル検索機能

4.2.1 概要

零式 L では、インプット・ボックスに日本語を入力することにより、ファイル検索の実行が可能です。本章では零式 L のインプット・ボックスに入力する日本語の文法について説明します。

なお、本章で使われている品詞は、零式 L 独自の定義で使用しており、本来の品詞とは用法が異なる場合があります。

4.2.2 文法

零式 L の自然言語ファイル検索機能を利用するための基本的な書式は 2 種類存在します。それぞれの文型について、詳細を下記に示します。

書式 I

Folda₁ Mode₂ Flag₃ conj₄ Word₅ conj₄ Object₆ conj₄ Action₇

1. Folda	フォルダ名	※1
2. Mode	検索モード	
3. Flag	検索フラグ	※2
4. conj	接続詞	
5. Word	検索文字列	
6. Object	検索対象	
7. Action	動詞	

※1 省略可

※2 省略可

1. Folda フォルダ名

file.txt で定義されたフォルダ、または絶対パスで指定されたファイル名を指します。ここで指定する絶対パスはドライブ名から記述する必要があります。また、相対パスでの指定はできません。

零式 L の画面にファイルの検索結果が表示されている場合は、検索結果に対する絞り込み検索が可能です。この場合、「その中で」という記述が"Folda"に相当します。

フォルダ名の指定を省略した場合、C ドライブのルート・ディレクトリから検索を開始します。

2. Mode 検索モード

検索する範囲を指定します。

"Folda"で指定したフォルダ以下で、サブフォルダも含めて検索を行う場合は「以下で」、サブフォルダを含めずに検索を行う場合は「直下で」と記述します。

自然言語ファイル検索機能では、下記の検索モードが指定可能です。

- ・"以下で" サブフォルダを含めて検索を実行
- ・"直下で" サブフォルダを含めず検索を実行

検索モードの指定は省略出来ません。ただし、絞り込み検索を行う場合、またはフォルダ名の指定を省略した場合は検索モードを指定しないで下さい。

なお、"Google で"を指定すると Google 検索、"Wikipedia で"を指定すると Wikipedia 検索を実行します。

3. Flag 検索フラグ

検索対象を指定します。ここで言う検索対象とは、ファイルの拡張子等を指します。

自然言語ファイル検索機能では、下記の検索フラグが指定可能です。

- ・"ヘッダ" ファイルの先頭 128 バイトを検索対象とする
- ・"ヘッダー" 同上
- ・"フッタ" ファイルの終端 128 バイトを検索対象とする
- ・"フッター" 同上
- ・"拡張子" ファイルの拡張子を検索対象とする
- ・"文中" ファイルに対し全文検索を行う
- ・"本文" 同上
- ・"ファイル名" ファイル/フォルダ名を検索対象とする

なお、検索フラグを省略した場合、ファイル/フォルダ名を検索対象とした検索を実行します。

4. Conj 接続詞

conj.txt で定義された接続詞を指します。

接続詞の指定は通常は省略可能ですが、書式 I での自然言語ファイル検索機能を使用する場合、特定の用例を除き接続詞の指定は省略できません。

書式 I の自然言語ファイル検索機能では、下記の接続詞が使用可能です。

- | | |
|---------|---|
| • "が" | 検索フラグ (3. Flag) の直後に記述。省略可
検索文字列 (5. Word) の直後に記述することも可能。
その場合は省略不可 |
| • "という" | 検索文字列 (5. Word) の直後に記述。省略不可 |
| • "の" | 同上 |
| • "で" | 指定詞 (9. Specific) の直後に記述。省略可
検索文字列 (5. Word) の直後に記述することも可能。
その場合は省略不可 |
| • "を" | 検索対象 (6. Object) の直後に記述。省略可
検索文字列 (5. Word) の直後に記述することも可能。
その場合は省略不可 |

検索対象 (6. Object) の直後に記述する接続詞は省略可能です。

5. Word 検索文字列

検索対象の文字列を指定します。

零式 L の自然言語ファイル検索機能を利用する場合、検索対象の文字列をダブルクォーテーション等でくくらないで下さい。もしダブルクォーテーション等で検索対象文字列をくくった場合、"ダブルクォーテーションを含んだ文字列"を検索してしまいます。

6. Object 検索対象

検索対象のオブジェクトを指定します。

ここで指定できるオブジェクトは"ファイル"か"フォルダ"のいずれか一方のみです。

ただし、検索フラグ (3. Flag) で"拡張子"のフラグを記述し、対象オブジェクトを"フォルダ"と指定した場合、零式 L はエラーを返し、検索動作を行いません。

7. Action 動詞

command.txt で定義された動作を指します。自然言語ファイル検索機能は、下記の動詞のうちいずれかを指定することにより利用できます。

- "検索"
- "検索しろ"
- "はあるか"

文法の補足

"Folda + Mode", "Flag + Conj + Word + Conj"および"Object + Conj + Action"は、零式 L の文法上では一つのブロックとして扱われます。これらのブロックはそれぞれ独立しており、ブロック同士の並び順は、自然言語で指示を与えるユーザが任意に決定できます。また、"Flag + Conj + Word + Conj"のブロックでは、"Flag + Conj"を省略可能です。

ただし、"Action"のみは文の最後に配置しなければなりません。

文例

C:\Program Files 以下で拡張子が txt のファイルを検索

その中で README というファイルはあるか

プログラムファイルズフォルダ以下で exe という拡張子を検索しろ

書式 II

Switch⁸ Specific⁹ conj⁴ Folda¹ Mode² Word³ conj⁴ Flag⁵ conj⁴ Object⁶ conj⁴ Action⁷

1. Folda	フォルダ名	※1
2. Mode	検索モード	
3. Word	検索文字列	
4. conj	接続詞	
5. Flag	検索フラグ	※2
6. Object	検索対象	※3
7. Action	動詞	
8. Switch	検索形式	※4
9. Specific	指定詞	※5

※1 省略可

※2 省略可

※3 省略可

※4 省略可。省略した場合、検索文字列をアスキー文字として検索します。

※5 省略可。検索形式を省略した場合は記述する事が出来ません。

1. Folda フォルダ名

file.txt で定義されたフォルダ、または絶対パスで指定されたファイル名を指します。
ここで指定する絶対パスはドライブ名から記述する必要があります。また、相対パスでの指定はできません。

零式 L の画面にファイルの検索結果が表示されている場合は、検索結果に対する絞り込み検索が可能です。この場合、「その中で」という記述が"Folda"に相当します。

フォルダ名の指定を省略した場合、C ドライブのルート・ディレクトリから検索を開始します。

2. Mode 検索モード

検索する範囲を指定します。

"Folda"で指定したフォルダ以下で、サブフォルダも含めて検索を行う場合は「以下で」、サブフォルダを含めずに検索を行う場合は「直下で」と記述します。

自然言語ファイル検索機能では、下記の検索モードが指定可能です。

- ・ "以下で" サブフォルダを含めて検索を実行
- ・ "直下で" サブフォルダを含めず検索を実行

検索モードの指定は省略出来ません。ただし、絞り込み検索を行う場合、またはフォルダ名の指定を省略した場合は検索モードを指定しないで下さい。

3. Word 検索文字列

検索対象の文字列を指定します。

検索対象の文字列は、検索形式(9. Switch)で指定された形式(バイナリ、またはアスキー)で扱われます。

零式 L の自然言語ファイル検索機能を利用する場合、検索対象の文字列をダブルクォーテーション等でくくらないで下さい。もしダブルクォーテーション等で検索対象文字列をくくった場合、"ダブルクォーテーションを含んだ文字列"を検索してしまいます。

4. Conj 接続詞

conj.txt で定義された接続詞を指します。

接続詞の指定は通常は省略可能ですが、書式 I での自然言語ファイル検索機能を使用する場合、特定の用例を除き接続詞の指定は省略できません。

書式 I の自然言語ファイル検索機能では、下記の接続詞が使用可能です。

- | | |
|-----------|---|
| • "が" | 検索フラグ (3. Flag) の直後に記述。省略可
検索文字列 (5. Word) の直後に記述することも可能。
その場合は省略不可 |
| • "という" | 検索文字列 (5. Word) の直後に記述。省略不可 |
| • "を含む" | 同上 |
| • "に言及した" | 同上 |
| • "の" | 同上 |
| • "で" | 指定詞 (9. Specific) の直後に記述。省略可
検索文字列 (5. Word) の直後に記述することも可能。
その場合は省略不可 |
| • "に" | 同上 |
| • "を" | 検索対象 (6. Object) の直後に記述。省略可
検索文字列 (5. Word) の直後に記述することも可能。
その場合は省略不可 |

検索対象 (6. Object) の直後に記述する接続詞は省略可能です。

検索フラグに拡張子やヘッダ、フッタを指定した場合、検索対象 (6. Object) に"フォルダ"を指定すると零式 L は検索動作を実行せず、エラーを返します。

5. Flag 検索フラグ

検索対象を指定します。ここで言う検索対象とは、ファイルの拡張子等を指します。
自然言語ファイル検索機能では、下記の検索フラグが指定可能です。

- | | |
|-----------|-------------------------|
| • "ヘッダ" | ファイルの先頭 128 バイトを検索対象とする |
| • "ヘッダー" | 同上 |
| • "フッタ" | ファイルの終端 128 バイトを検索対象とする |
| • "フッター" | 同上 |
| • "拡張子" | ファイルの拡張子を検索対象とする |
| • "文中" | ファイルに対し全文検索を行う |
| • "本文" | 同上 |
| • "ファイル名" | ファイル/フォルダ名を検索対象とする |

なお、検索フラグを省略した場合、ファイル/フォルダ名を検索対象とした検索を実行します。

6. Object 検索対象

検索対象のオブジェクトを指定します。

ここで指定できるオブジェクトは"ファイル"か"フォルダ"のいずれか一方のみです。

ただし、検索フラグ(3. Flag)で"拡張子"のフラグを記述し、対象オブジェクトを"フォルダ"と指定した場合、零式 L はエラーを返し、検索動作を行いません。

7. Action 動詞

command.txt で定義された動作を指します。自然言語ファイル検索機能は、下記の動詞のうちいずれかを指定することにより利用できます。

- "検索"
- "検索しろ"
- "はあるか"

8. Switch 検索形式

ファイルの検索形式を指定します。

書式 II の自然言語検索機能では、下記の検索形式を指定できます。

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| • "アスキー" | 検索文字列 (5. Word) をアスキー文字列として認識 |
| • "バイナリ" | 検索文字列 (5. Word) をバイナリ文字列として認識 |
| • "バイナリー" | 同上 |
| • "バイナリィ" | 同上 |

検索形式の指定を省略した場合、零式 L の自然言語ファイル検索機能は検索文字列 (5. Word) をアスキー文字列として認識し、検索を実行します。

9. Specific 指定詞

ファイルの検索形式を指定します。検索形式 (8. Switch) の記述を省略した場合には、指定詞の記述は出来ません。検索形式 (8. Switch) の記述を指定せず、指定詞の記述のみを行った場合、零式 L の動作を保証しません。

書式 II の自然言語ファイル検索機能では、下記の指定詞を記述可能です。

- "モード"

文法の補足

"Switch + Specific + Conj", "Folda + Mode", "Word + Conj + Flag + Conj" および "Object + Conj + Action" は、零式 L の文法上では一つのブロックとして扱われます。これらのブロックはそれぞれ独立しており、ブロック同士の並び順は、自然言語で指示を与えるユーザが任意に決定できます。

ただし、"Action" のみは文の最後に配置しなければなりません。

文例

バイナリモードでヘッダに 504b を含むファイルをプログラムファイルズフォルダ以下で
検索

4.3 自然言語プログラム終了機能

4.3.1 概要

零式 L では、インプット・ボックスに日本語を入力することにより、零式 L の実行を終了させることが可能です。本章では零式 L のインプット・ボックスに入力する日本語の文法について説明します。

なお、本章で使われている品詞は、零式 L 独自の定義で使用しており、本来の品詞とは用法が異なる場合があります。

4.3.2 文法

零式 L は、下記の書式に従う日本語を入力することにより、実行を終了します。

Action₁

1. Action 動詞

1. Action 動詞

command.txt で定義された動作を指します。自然言語プログラム終了機能は、下記の動詞のうちいずれかを指定することにより利用できます。

- "終了"
- "終了しろ"

文法の補足

動詞の前にどのような文章を書いても、零式 L はその文章をすべて無視します。従って、下記の文章はいずれも終了動作となり、零式 L は終了します。

- "終了"
- "プログラムを終了しろ"
- "セーブして終了"

5. GUI ランチャ機能

この章では、GUI を用いたアプリケーション/ファイル/フォルダのランチャ機能について記します。

5.1 プログラム・ランチャ画面から起動する場合

零式Lの基本画面からプログラム・ランチャ画面に画面表示を切り替えた場合、`ins.txt` において定義しているアプリケーションおよび `file.txt` において定義しているファイル/フォルダの一覧が表示されます。表示されているアプリケーション/ファイル/フォルダをクリックするとプロパティ表示画面に切り替わりますので、その後、アプリケーション/ファイル/フォルダが起動する領域をクリックして下さい。

なお、プログラム・ランチャ画面およびプロパティ表示画面についての詳細は 3.2 プログラム・ランチャ画面および 3.7 プロパティ表示画面を参照して下さい。

5.2 ファイル検索結果表示画面から起動する場合

ファイル検索結果表示画面では、検索条件に一致したファイル/フォルダの一覧が表示されます。表示されているアプリケーション/ファイル/フォルダをクリックするとプロパティ表示画面に切り替わりますので、その後、アプリケーション/ファイル/フォルダが起動する領域をクリックして下さい。

なお、ファイル検索結果表示画面およびプロパティ表示画面についての詳細は 3.4 ファイル検索結果表示画面および 3.7 プロパティ表示画面を参照して下さい。

6. GUI ファイル検索機能

この章では、GUI を用いたファイル/フォルダの検索機能についての補足を記します。

6.1 バイナリ検索についての補足

バイナリ検索モードで、検索文字列にアスキー文字を指定した場合の動作は保証しません。バイナリ検索モードでの検索文字列には 16 進数を指定して下さい。

16 進数を記述する際、先頭や終端に"&h"や"h", "0x"等の記号は必要ありません。これらの記号を付けて検索を実行した場合の動作については保証しません。

6.2 サブフォルダの深さについて

サブフォルダを検索対象に含めた場合、16 階層下のフォルダまで検索を行います。16 階層より深いフォルダ構造でサブフォルダを検索対象に含めた場合、検索をスキップします。

7. システム・ファイルの構造

この章では、「零式 L」で使用するファイルの記述フォーマットについて記します。

7.1 概要

零式 L で管理するユーザ辞書ファイルには次の 3 つのファイルが存在します。即ち、アプリケーションを登録する辞書ファイル、ファイル/フォルダを登録する辞書ファイル、コマンドライン・オプションを登録する辞書ファイルです。

零式 L は、アプリケーション辞書およびファイル/フォルダ辞書への新規名辞登録機能(3.6 プログラム登録画面)を備えていますが、名辞の編集・削除機能を実装していません。そのため、アプリケーション/ファイル/フォルダの登録名称を変更したり、登録されているアプリケーション/ファイル/フォルダを削除したりする場合、ユーザが直接辞書ファイルを編集する必要があります。

本章では、アプリケーション/ファイル/フォルダの登録名称変更や削除、またコマンドライン・オプションの登録・削除を行う上で必要となる情報を記します。

7.2 アプリケーション辞書ファイルの構造

アプリケーション辞書ファイル(ins.txt)は、零式 L から起動するアプリケーションを登録するファイルです。このファイルは CSV 形式で記述されます。

7.2.1 カラム

7.2.1.1 第一カラム

第一カラムでは、アプリケーション名を指定します。ここで指定したアプリケーション名は、自然言語ランチャ機能で用います。

第一カラムの書式は以下の通りです。

#零式 L

アプリケーション名の先頭に必ず"#"を記述して下さい。アプリケーション名自体は全角文字/半角文字等の区別無く使用できます。アプリケーション名はファイル名の先頭文字である#を除いた半角文字で 99 文字まで、全角文字で 49 文字までの指定が可能です。

7.2.1.2 第二カラム

第一カラムで指定したアプリケーション名の文字列長を記述します。第一カラムで指定したアプリケーション名を半角文字列に換算した数字を記載します。第一カラムで全角文字を使用した場合には注意が必要です。また、文字列長は必ず二桁の数字を記載するため、半角文字列長に換算した文字列長が一桁の場合は十の位に 0 を記述して下さい。

第二カラムの書式は以下の通りです。

05

7.2.1.3 第三カラム

第三カラムには第一カラムで指定したアプリケーション名に対応するプログラムのファイル名を記述します。プログラム名は原則絶対パス指定ですが、Windows の環境変数 PATH に指定してあるフォルダに格納されているプログラムについては、ファイル名だけの指定が出来ます。

第三カラムの書式は以下の通りです。

C:\零式 L\cars.exe

7.2.1.4 第四カラム

第四カラムには第三カラムで指定したプログラムの作業ディレクトリを記述します。

第四カラムの書式は以下の通りです。

C:\零式 L

7.2.2 アプリケーション辞書ファイルの設定例

以下にアプリケーション辞書ファイルの設定例を示します。

```
#零式L,05,C:¥零式L¥lcars.exe,C:¥零式L,  
#メモ帳,06,notepad,C:¥WINDOWS,  
.  
.  
.
```

7.3 ファイル/フォルダ辞書ファイルの構造

ファイル/フォルダ辞書ファイル(file.txt)は、零式 L で開くフォルダ/ファイル名を登録するファイルです。このファイルは CSV 形式で記述されます。

7.3.1 カラム

7.3.1.1 第一カラム

第一カラムでは、ファイル名を指定します。ここで指定したファイル/フォルダ名は、自然言語ランチャ機能および自然言語ファイル検索機能で用います。

第一カラムの書式は以下の通りです。

```
#Windows
```

ファイル/フォルダ名の先頭に必ず"#"を記述して下さい。ファイル/フォルダ名自体は全角文字/半角文字等の区別無く使用できます。アプリケーション名はファイル/フォルダ名の先頭文字である#を除いた半角文字で 99 文字まで、全角文字で 49 文字までの指定が可能です。

7.3.1.2 第二カラム

第一カラムで指定したファイル/フォルダ名の文字列長を記述します。第一カラムで指定したファイル/フォルダ名を半角文字列に換算した数字を記載します。第一カラムで全角文字を使用した場合には注意が必要です。また、文字列長は必ず二桁の数字を記載するため、半角文字列長に換算した文字列長が一桁の場合は十の位に 0 を記述して下さい。

第二カラムの書式は以下の通りです。

07

7.3.1.3 第三カラム

第三カラムには第一カラムで指定したファイル/フォルダ名に対応するファイル/フォルダのパスを記述します。ファイル/フォルダ名は絶対パス指定ですが、Windows の環境変数 PATH に指定してあるファイル/フォルダについては、ファイル/フォルダ名だけの指定が出来ます。

第三カラムの書式は以下の通りです。

C:¥Windows

7.3.2 ファイル/フォルダ辞書ファイルの設定例

以下にファイル/フォルダ辞書ファイルの設定例を示します。

```
#Windows,07,C:¥WINDOWS,  
#プログラムファイルズ,20,C:¥Program Files,  
.  
.  
.
```

7.4 コマンドライン・オプション辞書ファイルの構造

コマンドライン・オプション辞書ファイル(option.txt)は、零式 L で開くコマンドライン・オプション名を登録するファイルです。このファイルは CSV 形式で記述されます。

7.4.1 カラム

7.4.1.1 第一カラム

第一カラムでは、コマンドライン・オプション名を指定します。ここで指定したコマンドライン・オプション名は、自然言語ランチャ機能で用います。

第一カラムの書式は以下の通りです。

#メール

コマンドライン・オプション名の先頭に必ず"#"を記述して下さい。コマンドライン・オプション名自体は全角文字/半角文字等の区別無く使用できます。

コマンドライン・オプション名はコマンドライン・オプション名の先頭文字である#を除いた半角文字で 99 文字まで、全角文字で 49 文字までの指定が可能です。

7.4.1.2 第二カラム

第一カラムで指定したコマンドライン・オプション名の文字列長を記述します。第一カラムで指定したコマンドライン・オプション名を半角文字列に換算した数字を記載します。第一カラムで全角文字を使用した場合には注意が必要です。また、文字列長は必ず二桁の数字を記載するため、半角文字列長に換算した文字列長が一桁の場合は十の位に 0 を記述して下さい。

第二カラムの書式は以下の通りです。

06

7.4.1.3 第三カラム

第三カラムには第一カラムで指定したコマンドライン・オプション名に対応するコマンドライン・オプションを記述します。

第三カラムの書式は以下の通りです。

-mail

7.4.2 コマンドライン・オプション辞書ファイルの設定例

以下にコマンドライン・オプション辞書ファイルの設定例を示します。

```
#メール,06,-mail,  
#コンポーザー,12,-edit,  
.  
.  
.
```

7.5 登録情報の削除

ユーザ辞書に登録されている名辞を削除するためには、各辞書ファイルの対象レコード(行)を削除して下さい。レコードを削除することにより、零式 L のシステムから名辞が削除されます。